

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ)					担当教員	広田 秀樹 (ヒロタ ヒデキ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	協同学習型AL・課題解決型AL
	2025-0-41-061	ゼミナール 科目	必修	2単位	4年次	通年		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	協同学習型AL・課題解決型AL
	2425-0-41-006	ゼミナール 科目	必修	2単位	4年次	通年		

① 授業のねらい・概要						
<p>グラスルーツグローバリゼーションという地域活性化プログラムに取り組む。具体的には、第1にわたくし達の地域に在住される外国出身の方と交流し友好を深める地域国際交流を推進する。第2に地域国際交流を契機に広く国際社会についての探究学習を行う。第3に地域国際交流・探究学習等で得た専門知識・教養等を、地域の方に伝える地域国際理解推進活動を実施する。</p>						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
<p>地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力を育成する授業</p>						
③ 授業の進め方・指示事項						
<p>グラスルーツグローバリゼーションというゼミの地域活性化プログラムの基幹コンセプトを理解した上で、学生自身がチームを組み積極的に活動を進めること。</p>						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
地域活性化論						
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。						
学習資料を配布する。						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
ステイブーン・カースルズ、マーク・J・ミラー(関根政美・関根薫訳)(2011)『国際移民の時代』名古屋大学出版会						
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)						
<p>人口構造の激変を背景に、地域は生き残り、勝ち残りをかけた重要な岐路に直面している。若者特有の固定観念・通説を打破する飛躍性、エネルギー、情熱、独自性を全開させ、果敢に地域活性化の活動に挑戦してほしい。</p>						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
<p>(1) 地域国際交流を進める能力の十分な習得 (2) 地域国際交流を契機に実施する国際社会関連探究学習の十分な成果 (3) 地域国際理解推進活動を進める能力の十分な習得</p>						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	地域国際交流を進める能力の習得	地域国際交流を進める能力の習得に関して、授業内容を越えた成果を示している。	地域国際交流を進める能力の習得に関して、授業内容に見合った十分な成果を出している。	地域国際交流を進める能力の習得に関して、不十分なから成果を示している。	地域国際交流を進める能力の習得に関して、最低限の成果を示している。	地域国際交流を進める能力の習得に関して、全く成果を示していない。
(2)	地域国際交流を契機に実施する国際社会関連探究学習の成果	地域国際交流を契機に実施する国際社会関連探究学習に関して、授業内容を越えた成果を示している。	地域国際交流を契機に実施する国際社会関連探究学習に関して、授業内容に見合った十分な成果を出している。	地域国際交流を契機に実施する国際社会関連探究学習に関して、不十分なから成果を示している。	地域国際交流を契機に実施する国際社会関連探究学習に関して、最低限の成果を示している。	地域国際交流を契機に実施する国際社会関連探究学習に関して、全く成果を示していない。
(3)	地域国際理解推進活動を進める能力の習得	地域国際理解推進活動を進める能力の習得に関して、授業内容を越えた成果を示している。	地域国際理解推進活動を進める能力の習得に関して、授業内容に見合った十分な成果を出している。	地域国際理解推進活動を進める能力の習得に関して、不十分なから成果を示している。	地域国際理解推進活動を進める能力の習得に関して、最低限の成果を示している。	地域国際理解推進活動を進める能力の習得に関して、全く成果を示していない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	55%			30%	15%		100%	
(1) 地域国際交流を進める能力の習得	20%			10%	5%		35%	
(2) 地域国際交流を契機に実施する国際社会関連探究学習の成果	20%			10%	5%		35%	
(3) 地域国際理解推進活動を進める能力の習得	15%			10%	5%		30%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	レポート等に助言をつけ討論資料として紹介する。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	イントロダクション・ブレインストーミング	ブレインストーミングの内容に関するレポート作成						240分
2	グラスルーツグローバリゼーションとは何か	考察レポート作成						240分
3	宇宙的スケール・人類史的スケールから考える	考察レポート作成						240分
4	地域国際交流活動Ⅰ	考察レポート作成						240分
5	地域国際交流関連探究学習Ⅰ	考察レポート作成						240分
6	地域国際交流活動Ⅱ	考察レポート作成						240分
7	地域国際交流関連探究学習Ⅱ	考察レポート作成						240分
8	地域国際交流活動Ⅲ	考察レポート作成						240分
9	地域国際交流関連探究活動Ⅲ	考察レポート作成						240分
10	地域国際交流活動Ⅳ	考察レポート作成						240分
11	地域国際交流関連探究活動Ⅳ	考察レポート作成						240分
12	悠久祭（学園祭）での国際理解推進活動の立案	考察レポート作成						240分
13	悠久祭（学園祭）での国際理解推進活動の準備作業Ⅰ	考察レポート作成						240分
14	悠久祭（学園祭）での国際理解推進活動の準備作業Ⅱ	考察レポート作成						240分
15	前期まとめ	考察レポート作成						240分
16	悠久祭（学園祭）での国際理解推進活動の振り返り	考察レポート作成						240分
17	地域国際交流活動Ⅴ	考察レポート作成						240分
18	地域国際交流関連探究活動Ⅴ	考察レポート作成						240分
19	高校での国際理解推進活動の立案	考察レポート作成						240分
20	高校での国際理解推進活動の準備作業	考察レポート作成						240分
21	高校での国際理解推進活動の実施	考察レポート作成						240分
22	福祉施設での国際理解推進活動の立案	考察レポート作成						240分
23	福祉施設での国際理解推進活動の準備作業・実施	考察レポート作成						240分
24	中間レビュー	考察レポート作成						240分
25	中間レビューの振り返り	考察レポート作成						240分

26	成果発表会の準備作業	考察レポート作成	240分
27	成果発表会の振り返り	考察レポート作成	240分
28	報告書作成・編集作業	考察レポート作成	240分
29	報告書の確認作業	考察レポート作成	240分
30	年間活動の全体の振り返り	考察レポート作成	240分
⑫ アクティブラーニングについて			
協同学習型 AL・課題解決型 AL を採用する。学生がチームを編成した上で自主的に課題を考察し、具体的な行動計画を立案し実行するスタイルを徹底する。			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性